

表紙のことは

神田 勝巳, I.K.「すずめの落ち穂ひろい」

海辺を散歩していて、貝殻がたくさん落ちているのを見つけました。仕事で、ダイヤモンド工具の仕事をしていたので、この貝で貝細工をつくることを思いつきました。

はじめに、拾ってきた貝の汚れを落とし、形をみてイメージを膨らませていきます。細かいパーツが必要になるので、ダイヤモンド工具で貝を削り、パーツをつくります。左手での作業になるので大変です。一番大変なところは、足をつくる部分です。安定して立つようにするためには微調整が必要になるので、左手や口を使い、はさみで切り取って調整します。

つくっていて楽しいところは、貝の形に合わせているいろいろな動物をつくっていくところです。完成したときには、とてもうれしいです。

次回は、ダックスフンドをつくりたいです。(神田勝巳, I.K.)

写真は、カメラが好きな利用者様が撮ってくださいました。普段は、通所リハビリでの活動風景や外出時の写真を撮られています。これからも、いろいろな写真を撮っていきたいと言われています。お2人で協力し合い、素敵な作品が仕上がりました。(担当作業療法士：三原)



今月の作品

本コーナーでは、表紙にご応募いただいた作品の中から毎月1点をご紹介します。



桜井禎子&正本日出子「いが栗」

リハビリ時に職員と一緒に取り組まれた作品です。桜井様と正本様は病気による障害があり、介護老人保健施設で車いすの生活をされています。

「いが栗」は、担当作業療法士の自宅に落ちていたもので、利用者様にデッサンしていただき、和紙をちぎって貼りました。栗を立体的に見せることが難しく、難航しました。いがの部分は、かごづくりの材料を1本ずつ裂き、色のバランスを一緒に考えながら貼りました。

利用者様は、「自然の栗の色になるように考えました」、「立派にできました」と話されていました。

(担当作業療法士：堀口沙知)